

春告草

第133号 平成31年2月20日 進路指導部発行

センター試験を振り返る（第3回）

私大入試も終盤である。合格発表が始まり、嬉しい知らせを報告に来る6年生も増えてきた。来週は国公立大前期日程試験が始まる。1月のセンター試験受験から1か月経ったが、まだ受験は続いている。後期日程までしっかりと視野に入れて受験計画を立てている6年生も多く、ガンバレ！とエールを送っている。大学受験は長丁場である。健康面はもちろん、気持ちの面でも安定した状態を維持して進路実現に取り組んでください。

さて、センター試験を振り返る3回目は出題内容などを掲載します。5年生、4年生はしっかりと研究しておこう。（※数学、理科は次号に掲載予定）

科目	今年の出題内容・全国平均点（up・down）		来年に向けて
国語	<p>オーソドックスな出題で、文章全体を把握する力が求められた。 121.55 (16.87)</p> <p>全体としての本文の分量は、ほぼ昨年並。評論で昨年同様、本文に関する対話形式の出題が出題。各大問ともオーソドックスな出題で、文章全体の趣旨や主題を把握する力が求められた。全体的に本文が読みやすく、昨年より易化。</p>		<p>傍線部の前後の内容だけでは判断がつかない設問が多く出題されています。普段から、文章を読む際は全体の趣旨や内容を読み取ることを心がけましょう。また、さまざまな形式やジャンルの文章を読むことにも挑戦してみましょう。</p>
	配点	<p>第1問 現代文・評論 沼野充義「翻訳をめぐる七つの非実践的な断章」による(50点)</p> <p>第2問 現代文・小説 上林暁「花の精」(50点)</p> <p>第3問 古文 『玉水物語』(50点)</p> <p>第4問 漢文 『杜詩詳註』による(50点)</p>	
英語筆記	<p>出題形式に大きな変更なし。素材文の総語数はやや減少。 123.30 (-0.45)</p> <p>表を含む説明文や物語、論説など、様々な素材を読解する力が求められた。全体の概要を問う出題は変わらず、学習指導要領で重視される英文の内容を素早く大づかみする力とともに、細部を正確に読む力も求められた。</p>		<p>センター英語は読む英文の量が多く、設問では全体やパラグラフの概要を問う出題に加えて、複数の情報を組み合わせたり、書かれていない内容を推測する出題も見られます。概要を素早く把握する力とともに、ポイントとなる部分の内容を正確に読み取る力を身につけましょう。</p>
	配点	<p>第1問 発音・アクセント(14点)</p> <p>第2問 文法・語彙語法・語句整序・応答文完成(47点)</p> <p>第3問 不要文指摘・発言要約(33点)</p> <p>第4問 データ読み取り(図表・案内)(40点)</p> <p>第5問 長文読解(物語)(30点)</p> <p>第6問 長文読解(論説)(36点)</p>	
英語リスニング	<p>出題形式に大きな変更はなく、音声＋視覚情報で答える問題が出題。 31.42 (8.75)</p> <p>音声情報とイラストや図表を含む視覚情報とを組み合わせる問題や、3人の話者による話し合いの場面での出題がなされた。聞き取った内容を、設問に応じて処理する力が、昨年に引き続き求められた。また、細かい情報の聞き取り、直接述べられていない情報の類推なども求められた。ただし全体的には取り組みやすく、難しかった昨年より易化。</p>		<p>場面や状況を推測して応答を選ぶ問題から、概要把握力を要する問題、音声と文字情報を組み合わせる解く技能融合型の問題まで、幅広い力を求める出題がされています。多様な場面設定の英文の聞き取りや、情報を素早く整理・取捨選択する練習の積み重ねが、得点アップの鍵です。</p>
	配点	<p>第1問 短い対話・Q&A選択(12点)</p> <p>第2問 短い対話・応答文選択(14点)</p> <p>第3問 対話/案内図と対話文(12点)</p> <p>第4問 モノローグ/話し合い(12点)</p>	
世界史B	<p>地図やグラフ問題で昨年より資料読解力が問われた。 65.36 (-2.61)</p> <p>大問構成や解答数は変更なし。地域網羅性は継続された。4択の文章選択問題は減少し、昨年出題されなかった6択の年代整序問題が1問出題され、地図問題は1問増加して2問となった。基本的な内容が中心であるが、正確な理解と地図やグラフの読解力が求められ、昨年よりやや難化。</p>		<p>あらゆる時代・地域・分野から、基本事項を中心に出题されます。教科書で強調されている重要事項を中心に、図説の地図と年表も活用して、出来事が「いつ」「どこで」「どのように」「なぜ」起こったのかを意識しながら、理解を深めていきましょう。</p>
	配点	<p>第1問 歴史的建造物や遺跡(25点)</p> <p>第2問 記録や文字(25点)</p> <p>第3問 国際関係(25点)</p> <p>第4問 宗教と政治(25点)</p>	

科目	今年の出題内容・全国平均点 (up・down)	来年に向けて
日本史B	史料は扱われたが、図版はなく「地名の由来」や「年号」の観点で出題。63.54 (1.35) 大問数、解答数に変更はなかった。史料読解力は引き続き重視されたが、写真や図版は見られず文字情報の読解に絞られた。主題学習に配慮されており、「地名の由来」や「年号(元号)」「日米関係」などの生活に身近なテーマも見られた。全体的な難易は昨年並。	今年では文献資料だけが扱われ、地図や写真などはありませんでしたが、例年さまざまな史資料を扱った出題がみられるため注意が必要です。その際、各種史資料から「どのようなことが読み取れるか」「全体の趣旨は何か」という視点で臨むことが大切です。
	配点 第1問 地名からみる歴史・文化(16点) 第2問 原始・古代の歴史研究と資料(16点) 第3問 中世の政治と社会(16点) 第4問 近世の社会・政治・文化(16点) 第5問 近世・近代における公家と華族(12点) 第6問 近現代の日米関係(24点)	
地理B	多様な資料が用いられ、地理的思考力や正確な知識が問われた。62.03 (-5.96) 多様な図表が数多く用いられ、限られた時間の中で正確に図表を読解する力と地理的な見方・考え方が求められた。第2問では大問全体でコーヒーを題材に展開され、関連する事項の基本的な知識や地理的思考力が要求された。正確な知識を問う問題がみられ、昨年より難化。	各分野の重要事項や原理・原則をしっかりとおさえ、それを活用して論理的に類推・考察する演習を繰り返し行いましょう。そして、見慣れない資料などを用いた問題が出題されても、これまで学習した内容と結びつけて考えることで、解答の糸口を見つける対応力を培っておきましょう。
	配点 第1問 世界の自然環境と自然災害(17点) 第2問 資源と産業(17点) 第3問 都市と村落、生活文化(17点) 第4問 地中海沿岸地域の地誌(17点) 第5問 ウクライナとウズベキスタンの比較地誌(14点) 第6問 宮崎市の地域調査(18点)	
倫理	組合せ問題が減少したが、やや細かな知識を問う問題が増加した。62.25 (-5.53) 大問構成や出題分野は変更なく、リード文をしっかりと読んで解答する形式も引き続きみられた。現代思想では構造主義やロールズ思想が問われた。組合せ問題が減少したが、やや応用的な知識や理解が多く問われた。昨年より難化。	リード文を丁寧に読み、その意味内容をしっかりと把握して問題に取り組むことが大切です。また、思想家の基本的な用語の意味内容の理解に加えて、相違点や共通点、さらには思想史の流れを理解することが重要です。資料読解問題にも慣れておきましょう。
	配点 第1問 家族の多様化と個人のあり方(28点) 第2問 古代思想における癒し(24点) 第3問 日本思想における心と行為とのかかわり(24点) 第4問 運命についての考え方(24点)	
政治・経済	すべての分野から基礎的な事項が網羅的に出題された。56.24 (-0.15) 例年通り、4大問中3大問の一部の設問は「倫理、政治・経済」との共通問題であった。基礎的な理解を幅広く問う出題の中では、年代整序問題や資料を用いた問題などもみられた。全体的に教科書に基づいた基本事項の理解を中心に問われており、難易は昨年並。	今年も、基礎的な事項をおさえれば解答できる問題が中心でした。まずは着実に学習を積み重ね、基本を身につけておきましょう。また、基礎的な事項をもとに考察する力が求められるので、重要事項と関連する知識を結びつけながら学習しておくことが大切です。
	配点 第1問 経済のグローバル化への対応と地域経済統合(28点) 第2問 冷戦終結後の国際社会(24点) 第3問 基本的人権の保障と民主主義(24点) 第4問 持続可能な発展に向けた環境政策(24点)	
倫理 政治・経済	倫理は正確な思想理解、政経は基本事項の知識とやや深い理解を要求。64.22 (-8.86) すべての設問が単独科目「倫理」および「政治・経済」と共通であった。倫理分野では昨年に続き統計資料が使用されず、文献資料の読解や、思想の正確な知識理解が問われた。政治・経済分野は基本事項の知識とやや深い理解が問われた。両分野とも基本知識を中心に細かい部分まで問う出題がみられたため、昨年より難化。	「倫理」「政治・経済」ともに十分な学習を積み上げておきましょう。重要語句の理解にとどまらず、「倫理」では思想家の共通点や相違点、思想の時代背景などをおさえる、「政治・経済」では重要な出来事を時系列や因果関係で把握するなど、つながりを意識して理解を深めましょう。
	配点 第1問 家族の多様化と個人のあり方(14点) 第2問 日本思想における心と行為とのかかわり(18点) 第3問 運命についての考え方(18点) 第4問 経済のグローバル化への対応と地域経済統合(22点) 第5問 基本的人権の保障と民主主義(14点) 第6問 持続可能な発展に向けた環境政策(14点)	
現代社会	国内外の政治・経済や社会の動向をふまえて正確な知識・理解が問われた。56.76 (-1.46) 経済分野が減少し、政治分野・国際経済分野の出題が増加した。趣旨を問う出題、写真を使用した出題がなくなり、オーソドックスな出題形式で、時事的な理解を含め、学習した内容が確実に身につけているかが問われた。全体として、基本的・標準的な知識が求められており、難易は昨年並。	センター対策として最も大切なことは、基本事項の正確な理解です。それは用語の暗記という意味ではなく、「目的は何か」「どのような場面か」といった背景を踏まえた「使える知識」であることです。聞き覚えのある用語がニュースなどででてきたら、その場で確認し関連づけておきましょう。
	配点 第1問 経済のグローバル化(22点) 第2問 個人の尊厳と法制度(14点) 第3問 『ありがとう』から考える青年期と社会(14点) 第4問 日本の高齢社会と法制度(22点) 第5問 データの活用と経済理論(14点) 第6問 欧州議会と民主政治(14点)	

大学入試ガイド(6)

国公立大の推薦入試・AO入試

推薦入試、AO入試は、私立大学では以前より行われていましたが、筆記試験だけでは分からない適性などを慎重に評価して選抜したいという狙いで、国立難関大でも積極的に行われるようになりました。一般入試に比べれば、入学枠は少ないのですが、志望校が実施している場合は研究してみる価値はあるでしょう。

国公立大全体の募集人員の2割が推薦・AO募集枠

筆記試験だけではなく、受験生を多角的・多面的に評価する目的で実施されているのが推薦入試、AO入試である。2021年度入試(4学年受験年度)から、推薦入試は学校推薦型選抜、AO入試は総合型選抜と名称は変わるが、選抜の目的に変わりはない。私立大の中には早期に学生を確保することを目的に実施するところもあるが、東大、一橋大をはじめ難関国立大での新規実施や、東北大などのように既に実施している大学で推薦・AO入試枠が拡大されていることが最近の注目ポイントである。

推薦入試は国公立大全体の95.9%、165大学で実施され、AO入試と合わせた募集人員は全体の20.1%にも及ぶ。表1は首都圏国公立大学での入試区分別の募集人員だが、東京外国語大は国際日本学部の新設に伴い昨年の12人から80人と大幅に増加した。

国立難関大の出願要件の水準は高く、東大、京大、阪大では「科学オリンピック上位入賞者」や高度な語学力などが求められる。センター試験受験が課せられている大学・学部も多く、その際の基準点も一般入試合格者に準じる高レベルである。また、受験者がアピールする研究成果などのレポートの提出も求められるので、受験期になってからレポートを作るようでは間に合わない。早い時期からの積み重ねや実績が必要である。

推薦入試は公募制と指定校制

推薦入試の募集方法は大きく分けて「公募制」と「指定校制」の2通りがある。

公募制推薦入試とは、大学が提示した出願条件を満たす人について、高校長の推薦に基づき、高校の成績や活動ぶり、面接や小論文、学力検査などを総合して可否を判定するものである。出願条件をクリアし、高校長の推薦を得ることができれば(※)、全国どこの高校からでも出願できる。

国立大は原則として公募制推薦で行われ、指定校制推薦はない。また、公立大は一部で指定校制推薦を実施しているほか、「県内・市立の高校に限る」というように、出身地を指定する場合もある。

指定校制推薦は大学が指定した高校から人数を限って出願を受け付ける入試制度である。大学は過去の入学者数や、入学後の成績などをみて高校を指定する。指定校制推薦では、事前に「高校内選考」があるので、調査書を中心に選抜が行われる。私立大では公募制推薦と指定校制推薦を併用して実施している大学が多い。

※大学が推薦基準を設けていても、最終的には募集要項に「学校長が推薦するにふさわしい人物と判断できる者」と書かれているのが一般的で、高校側に推薦する全責任が委ねられている。したがって、学業成績が基準を満たしていても、部活動や遅刻、欠席など日常の生活状況などに問題があり、推薦に値しないと高校が判断する場合もある。

評定平均値4.0以上が基準

推薦入試の出願条件は、学業成績、現浪、併願の可否などであり、もっとも重要なのは学業成績である。学業成績は、調査書に「全体の評定平均値」または「学習成績概評」として記載されている。「全体の評定平均値」とは、調査書に記載された全教科・科目の成績(評定)を足し合わせて、その合計数

表1 平成31年度選抜方法別募集人員

大学	前期	後期	AO・推薦
埼玉大	938	431	151
千葉大	1,747	339	224
東京大	2,960	0	100
東京医科歯科大	205	25	46
東京外国語大	579	56	80
東京学芸大	721	163	126
東京農工大	487	245	89
東京芸術大	471	0	0
東京工業大	900	35	93
東京海洋大	259	115	53
お茶の水女子大	328	51	73
電気通信大	370	250	100
一橋大	825	60	50
横浜国立大	860	506	240
埼玉県立大	197	40	158
千葉県立保健医療大	92	0	88
首都大学東京	992	214	352
横浜市立大	610	5	285
神奈川県立保健福祉大	100	15	98

平成31年度国公立大学入学者選抜の概要(文部科学省平成30年8月)より抜粋

図1 評定平均値と学習成績概評

全体の評定平均値 = $\frac{\text{高校1年} \sim \text{高校3年までの「全教科・科目の成績の合計」}}{\text{すべての科目数}}$

学習成績概評	A	B	C	D	E
全体の評定平均値	5.0~4.3	4.2~3.5	3.4~2.7	2.6~1.9	1.8 以下

を全科目数で割ったものである。学習成績概評は、「全体の評定平均値」に応じてA～Eの5つの段階に区分されている。図1に計算式と学習成績概評を示したが、いずれも現役生は高校1年次から3年の1学期まで、浪人生は3年修了時までの成績が調査書に記入され、出願条件のもっとも大きなポイントとなる。国公立大では、「全体の評定平均値」が4.0以上、または学習成績概評がA段階以上の大学が目立つ(B段階以上の大学もある)。私立大では、「全体の評定平均値」を3.2以上、学習成績概評をC段階以上としているところが多いが、中には4.0～4.5以上と高いところや、逆に2.7以上と低い大学・学部もあり、見極めが大切だ。

「専願」は辞退不可！

推薦入試では、この大学しか出願できない、つまり他大学との併願が認められない「専願」という条件がある。国公立大はほとんどが「専願」で実施される。私立大は大学により異なるが、首都圏の大学には「専願」が多い。合格すると入学辞退が認められないので要注意だ。また、指定校推薦は「専願」であるので気を付けよう

AO入試は時間をかけてじっくり評価

AO入試は学力試験だけでなく、面接・小論文や書類審査、自己PRなどで、受験生の個性や適性、意欲など総合的な人物評価を行う選抜方法である。推薦入試とは異なり、高校長の推薦を必要としない場合も多く、専願の大学が大半。このため、自分が本当にその大学に入学を希望しているのかを見極める必要がある。また、AO入試は選考が長期にわたるため、最終的に不合格になった場合に備え、推薦入試や一般入試の準備もしておいたほうが良い。推薦入試と同様に、AO入試の出願条件は、学業成績、現浪、併願の可否などである。推薦入試と同様、AO入試でも出願資格に英語外部検定(英検、TEAPなど)を加える大学は増加傾向にある。

メリットやディメリットは？

AO入試の出願は8月1日以降と定められていて、私立大の中には夏のオープンキャンパスでAO入試の事前相談やエントリーを行っているところもある。推薦入試の出願は11月1日以降である。志望理由書は出願の際、必要な書類だが、京都市大・特色入試「学びの計画書」など大学入学後にどのような研究を行いたいのか、詳細な記述を求める大学もあり、「筆記試験がないから」という、お気楽な動機だけでは、出願しても面接で志望理由の希薄さが露呈するだけだろう。どうしてもその大学へ入学して、こういっことを学んでみたいという確固な志望動機が求められている。センター入試を課さない選考の場合は、10月～11月にそれぞれの合格発表が行われるが、不合格となるケースも当然あるだろう。「ショック」から立ち直ることができずに一般入試を迎えることになってしまった過去の事例もあるので、この辺のことは十分に承知したうえで、チャレンジしてもらいたい。ましてや、合格を期待して、それまでの勉強を疎かにするようではいけない。専願のところが多いと説明したが、中には「併願可」の大学もある。制度を上手に利用して、滑り止めの合格を確保しておいて、一般入試で第一志望校も含めてチャレンジ校の試験に挑戦した事例もある。まだまだ、ケースとしては少数であるが、今後の推薦入試、AO入試の募集枠の拡大に伴って、利用する機会は増える可能性もあるだろう。

国立大学推薦入試・AO入試実施結果

平成31年度東京大学推薦入試

学部・学科名	募集人員	志願者数	合格者数
法	10人程度	22	10
経済	10人程度	2	1
文	10人程度	8	3
教育	5人程度	24	8
教養	5人程度	23	4
工	30人程度	48	22
理	10人程度	32	9
農	10人程度	11	4
薬	5人程度	9	1
医・医	3人程度	5	4
医・健康総合科学	2人程度	1	0
合計	100人程度	185	66

平成31年度東京工業大学推薦入試・AO入試

区分	学院名	募集人員	志願者数	合格者数
推薦入試	理	8	26	9
	工	34	270	34
AO入試	物質	18	117	18
	情報	6	45	6
	生命	10	38	10
	環境A	7	93	17
	環境B	5	29	
	環境C	5	30	
合計		93	648	94

平成31年度京都大学特色入試

学部・学科・コース名	募集人員	志願者数	合格者数
総合人間	5	35	5
文	10	56	10
教育	6	30	6
法	20	514	—
経済	25	96	22
理	5	84	6
医-医	5	14	4
医-先端看護	20	41	20
医-人間健康-理学療法	5	17	5
医-人間健康-作業療法	5	8	4
薬-薬科	3	4	1
薬-薬	3	5	0
工-地球工	3	14	2
工-建築	2	9	1
工-物理工	5	23	4
工-電気電子工	7	11	4
工-情報	3	8	1
工-工業化学	7	5	4
農-資源生物科	3	23	3
農-応用生命科	3	6	3
農-地域環境工	3	7	2
農-食料・環境経済	3	14	3
農-森林科	3	19	4
農-食品生物科	3	6	2
合計	157	1049	116

法学部は後期日程での募集のため、空欄である